

令和7年度 重点目標 ○登校不安・いじめ等の未然防止（発達支持的生徒指導）「生徒指導提要」 ○心と体のたくましさを併せもつこどもの育成「挑む力と立ち直る力」	安全で安心感もてる環境（人権教育が基礎） ○教員の資質能力の向上に資する研修の充実	○「問い」を発することも” の育成
--	--	-------------------

確かな学びの現状 ・基礎的な教科学力について成果が見えている。「わからないことがあれば先生に聞く」児童も増え（質問調査より）課題解決へ意識が向いている。授業への取組も少しずつであるが、受動的から主体的へ変わりつつあり、今は変換期になっている。 ・読解力が課題となっている。「自分の考えが伝わるように表現する」「理由を言葉や数字を用いて説明する」など国語算数とともに、思考力や判断力・表現力に課題がみられている。また質問調査や学校アンケートからも図書離れが顕著であり、さらに「人の話をしっかり聞く」項目も年々値が下がっている。聞いたり読んだりするインプットと概要をまとめてアウトプットする表現の両方が必要である。	豊かな心・健やかな体の現状 ・「進んであいさつをする」が本校の課題である。その時の喜怒哀楽の感情の表現もあいさつで表現してもよく、コミュニケーションの第一歩としての認識をこどもたちにもたせていく。 ・新しいことや与えられたことは、やってみようとする気持ちのあるこどもたちであるが、そこで失敗するとあきらめてしまったり、特に顕著にみられるのが、人間関係でつまずくと自分での解決が難しくなり登校渋りがみられることが多い傾向にある。挑む力はそのまま継続しながら、再挑戦する強い力をはぐくみたい。 ・「体を動かしたり運動をすることが好き」「外で遊んだりかけ足なわとびなど体力づくりをがんばっている」の学校アンケート項目で課題となっている。特に今年度の6年生は室内で過ごしたり、体のかたさやケガの多さもみられる。最高学年として学校をリードする責任感とともに運動、意欲なども育成していきたい。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組 ★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～11月）	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	学ぶことを楽しみ、自ら学ぶこどもの育成	●『探究的な学びの充実』『問い』や「ふりかえり」の充実に焦点を当て、「こども自身が問いをもち、主体的に解決していこうとする学び」の実現	「授業は分かりやすいですか。」で肯定評価85%以上 「自ら課題解決をしている」肯定評価85%以上 「授業の終わりに授業で学んだことを振り返り自分でわかったこと、わからなかったことを理解している」肯定評価80%以上	学校教育アンケート及び学力調査質問調査	年度末	・校内研究授業や全体協議会・指導助言、夏季研修等で教員が学びを深め共有している 「問い」を中心にした授業づくりの中で、「考えたくなる問い」をどう生み出するか、教師の関わり方について研修中				
			●『みんなで学ぶ』必要感のある交流と対話的な学び。教科の本質の「ふりかえり」をしていくこどもの育成（見通しはどうだったか、何ができるようになったのか、どのように解決したのか、誰とどのような話しをしたのかなどと振り返るこどもの育成）	①月1回「ふりかえり」の記録 ②児童の「問い」や「ふりかえり」現物の共有 ③「授業の中で友だちと話し合いながら勉強をしている」「グループやペアで話し合ったり意見を出し合ったりして課題を解決している」「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで自分の考えをしっかりともてるようになった」をそれぞれ肯定評価80%以上	①研修ふりかえりファイル ②廊下の掲示物 ③学校教育アンケート及び学力調査質問調査	年度末	①・授業や授業づくりの中で考えたことを毎月「ふりかえり」に記録し、互いの実践や考えを共有している。職員会議の中で他クラスの実践を確認する時間を確保する ②児童の「問い」や「ふりかえり」のノートや実践を職員間で共有したり、廊下に掲示したりしている ③学力調査質問調査の結果は現在分析中				
			基礎力（知識・技能）の向上、共通の課題（指導）の取組[月1回、朝学の時間に、全校で漢字・ひらがな（計算）テストを実施] ●タブレットを活用し、漢字・計算の基礎が定着する	・「学ぶことが楽しい」で肯定評価90%以上 ・「タブレットを活用した活動をしている」で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	・2学期より月1回、全校で「みいチャレ」（小テスト）を実施しやり直しまで行う。漢字・計算等の基礎学力と意欲向上をねらっている ・週1回金曜日の朝学の時間にタブレットを活用した教科の復習・漢字・計算を行う				
		連続したこどもの10年間（1・6・3）の発達に即した教育課程の編成	★『学校群を意識した取組』 授業研究の相互の参加、討議を通したカリキュラムマネジメント	①「学校群のねらいを理解し、授業の相互参観に参加した」「児童の発達を考え、言葉かけや授業展開を工夫した」肯定評価80%以上 ②学校群を意識した各学年・教科の教育計画の見直し	①学校教育アンケート（教職員） ②教育計画の見直し	年度末	①小中が互いに研究授業を参観 ②試行的に中学校の社会科教員が6年生の社会を乗り入れ授業を実施（9月4時間） 児童・担当教員・小の担任にとって効果あり 10月より6年生の総合の学習で中学生との交流を立案中				
			『就学前教育との交流・連携』 砂遊びや学校探検、運動場での交流など定期的に実施	「年長児と交流することで思いやる気持ちもてた」「わかるように伝えようとした」肯定評価85%以上	学校教育アンケート	年度末	・1年生は2園と定期的な交流を実施1学期（泥遊びと交流遊び）2学期（秋見つけとそれをつかった遊び交流）3学期（学校探検） ・2年生はこども園をおもちゃまつりに招待				
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	安全で安心感もてる環境学校づくり	●『伝わるあいさつ』 ・こどもたちが自分の気持ちや考えをしっかりと伝える力の育成 ・「あい」が意識できる授業展開・学校生活をする（かわり合い、話し合い、支え合いなど）	「自分からあいさつができる」児童・保護者・教職員アンケートの肯定評価平均85%以上 「困ったときに相談できる人がいる」肯定評価85%以上 「友だちとのかかわり合い」の関連質問肯定評価85%以上	学校教育アンケート	年度末	・見守り隊の方から、すすんであいさつできるこどもが増えたという声があった ・今年度、こどもがより安全に安心できる教育環境を整えるため、生徒指導連絡会を開催している。こどもの些細な言動の変化から、その心理状態に気付けるよう教職員の感性を高めることや、教育相談体制を整備し、こどもと教職員の“確かな安心”のために努めている				
			●『不登校・いじめの未然防止』 「わかりやすい授業」と「自分の居場所がある」の両輪（生徒指導提要の活用）	「困ったときに相談できる人がいる」「学校に好きな場所がある」「授業はわかりやすい」それぞれ肯定評価85%以上	生活アンケート	年度末					
	心身の調和を保つ	挑む力と立ち直る力の育成	『体力の向上』 体育の授業の充実と全校的な体育集会等を計画的・効果的に活用し、かけ足やなわ跳び等を行い、運動への意欲を高め、体力向上をめざす	「運動することが好きだ」で肯定評価85%以上	学校教育アンケート	年度末	・11月から月に1度、体育集会でかけあしと大縄を全校で行う予定				
			『望ましい食習慣など健康な生活習慣の形成』家庭科や中学校の栄養教諭と連携し食育指導やふりかえりの取組	「朝食を食べた」喫食率90%	学校教育アンケート	年度末	・中学校の栄養教諭と連携し、食育指導を行っている ・1学期の「朝食アンケート」では、90%以上の児童が朝食を食べている				
			●「新しいことに挑戦する力」「困難に立ち向かおうとする力」「失敗から学び、再び挑戦する力」の育成	「先生や友だちからの「励まし」で困難なことにも挑戦できた」「この1年間で、同じ失敗を繰り返さなくなった」「もう一度挑戦しよう！と思える強い心が育った」肯定評価85%以上	学校教育アンケート	年度末	・行事をとおして挑戦することや失敗を乗り越えようとする姿が5・6年生に顕著にみられた（体育大会、臨海学習、連合運動会や連合音楽会）				
	地域協働	地域協働教育の推進 「地域とともにこどもをはぐくむ御池台小学校」	「みいけだより」「ホームページ」「昇降口のテレビ放映」を活用した教育内容の積極的な情報発信	教育内容を共有するためのタイムリーな発信	学校教育アンケート	年度末	積極的に教育活動を「みいけだより」「ホームページ」「昇降口のテレビ放映」で情報発信している				
			1年間の地域と連携した教育活動をまとめ年度末に地域の方々と共に成果と課題を共有する	連携した教育活動をまとめ地域の方へ報告	こどものまとめ（PP）	年度末	地域のお借りした教育活動を各学年行っている 3・4・5年生はパワーポイントを作成し3学期の参観時にご招待する予定				